

鳳儀山聖護寺のご紹介（令和七年五月二十五日）

本日は鳳儀山聖護寺の春の法要に御上山戴き、聖護寺護持会を代表致し衷心より御礼申し上げます。御存知とは思いますが、一応聖護寺の此までを申し述べます。

聖護寺の起源は今から六八七年前の一三三八年（延元三年）菊池氏第十三代武重公より現在地の土地寄進に依り、曹洞宗大本山永平寺第六代の適孫大智禪師が開かれた由緒ある寺であります。

大智禪師は一二九〇年、宇土市不知火町で誕生され、七歳にして自ら川尻町の大慈寺に入山され、寒厳義伊禪師に師事されて禪師が小智とされた名を大智と直訴されています。その後長じて瑩山禪師に身を投じ、抜きん出た才を発揮し二六歳で元（中国）に渡り一〇年間、道元禪師の足跡を辿って居られます。その当時、九州きつての豪族武士団であった菊池一族の篤い帰依を受け、当時元より帰朝後加賀之国（石川県）芳野村に獅子山祇陀寺を起こされていたのを、第一二代武時公の頻りの懇願で一三三〇年に玉名に迎えて興福寺を開創されましたが、より深山幽谷の地を望まれ、第一三代武重公が寄進されたこの地に草の庵を結ばれ、戦乱激動の中、玉名・廣福寺へ下山されるまでの二〇余年間、武士達と禪修行に専念され、生涯二四八首詠まれた偈頌の中、鳳山八首と因事三首が詠まれています。その後聖護寺は廃寺となり雑木の生い茂る荒野と化しました。一三五三年に長崎県加津佐・水月庵円通寺に移られ、一三六七年に同寺にて七七歳で示寂されました。

中興開山と称せられる村上素道老師は一九四二年（昭和一七年）、大智禪師の遺徳の顕彰に命を懸け、長崎・皓台寺の住職を辞し、徒手空拳で廃寺と化した聖護寺跡に入山され、筆舌に尽くし難い懸命の努力で本堂・庫裡・茶室・鐘樓を建立、幾多の著述・二千冊の書籍収集に努められましたが、昭和三九年九〇歳で示寂され、菊池市第一号の名誉市民・熊本県の文化功労者となりました。

二世鈴木素田老師は福岡農士学校教授から素道老師の要請に応じ、四〇歳で仏門に入り苦難苦到の末、素道老師没後間なしに大智禪師六百回大遠忌法要を営み、大智禪師偈頌訓注の発刊、本堂の大修理、奈良薬師寺佛足石の勧請、宝篋印塔の建立と矢継ぎ早に尽力されましたが、昭和四八年五八歳で急逝されました。

三世檜崎一光老師は四国伊予瑞應寺専門僧堂長・二九世住職で同郷同窓の誼みで素田老師葬儀の導師を務められ、聖護寺関係者一同の熱烈な懇願により、兼務住職を受けられ僧堂を建立し、禪を求める世界の人々の為に国際禅道場を開かれ、海外からの参禅者が毎年上山し、雲衲衆と共に修業していました。その最中に大本山永平寺の後堂・副貫首に就任され約一〇年間は佐藤寿志子氏が独りで護っておられました。一光老師は将来を囑望されながら平成八年、七九歳で示寂されました。

四世檜崎通元老師は佛國山瑞應寺三〇世住職で、一光老師の御実弟であり、小兵なれど氣力に溢れ仏法の正道を歩み只管打坐を貫き、海外での法要・晋山式にも臨まれ、平成二七年の大智禪師六五〇年遠忌、並びに村上素道老師五〇回忌法要も厳修されましたが、ご高齢の為、令和四年九七歳で遷化されました。

五世金岡潔宗老師は本年正式に兼務住職と成られましたが、通元老師を師と仰ぎ、四国伊予の溪寿寺を継がれ、昨年佛國山瑞應寺三二世に就任されました。此れまでの歴代の御住職と同様の聖護寺へのお力添えをお願い致します。

又、此れまで十余年間、監寺としてご苦勞戴きました阿蘇極楽寺・林秀峰老師は昨年未を以て辞任されました。多年に亘る御心労を衷心より厚く感謝申し上げます。

本年より、長崎諫早妙本寺・吉谷大憲老師が坐禪その他諸行事を受け持たれる事になりました。ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様へお願いがございます。

聖護寺は大智禪師の薫陶により、菊池一族の精神的な支柱として存在した古刹であり、その後の歴代の御住職の懸命のご努力により、今日迄引き継がれて参りましたが、御承知の通り、無檀無祿、即ち檀家もなく、寺としての収入源も持ち合わせて居りません。瑞應寺様のご援助と護持会員の皆様からの会費で年間の諸事を行って居りますのが現状でございます。護持会役員の全員が曹洞宗以外の問徒ですが、聖護寺を菊池の宝として護って行かなければならないとの一途な想いで誠に微力ながらお手伝いを行って居ります。

現在、月一回の参禅会と仏教の根本教理である唯識論講義を奈良薬師寺長藤・松久保老師のご指導で行って居ります。

本日御上山の皆様を始め全国の会員の皆様、有縁の皆様は今後とも倍旧の御支援を衷心より切にお願い申し上げます。御同僚様との坐禅会などご企画くだされば幸いに存じます。皆様の益々のご健勝を衷心より御祈念申し上げて御挨拶と致します。

合掌

鳳儀山聖護寺護持会会長 宮本雄一

他役員一同

巡拝の栞（順路）

一・宝篋印塔

鈴木素田老師が先の大戦で戦没された彼我の別なく慰霊する為に建立された。

二・墓所参拝

大智禪師を始め、歴代住職（中興開山・村上素道老師、中興二世・鈴木素田老師、中興三世・檜崎一光老師、そして寿志子女史）の墓参

三・傍足石礼拝

村上素道老師の遺言を鈴木素田老師が奈良薬師寺の長藤・松久保秀胤老師（当時副貫首）に相談し、国宝佛足石と同一物を田中元護持会長を通して聖護寺に勧請された。仏像礼拝が起こる迄は、併足蹠宗拝が広く行われた。

四・鎮守の杜礼拝

以前、尼寺であった処を檜崎通元老師が鎮守の杜として整備され尼僧諸子を祀られた。菊池武時公の奥方も公の討ち死に後、出家されて此処に祀られている。

注

吉峯路入鳳山鳩（大智禪師作 村上素道老師 筆）

きつぼうのみちは ほうざんのうに入る

菊池武時公 辞世の歌

ふるさとに今宵ばかりの命とも知らでや人の我をまつらん

武時公奥方 辞世の歌

ふるさとも今宵ばかりの命ぞと知らでや人の一人逝くらん

法要の様子

